

JAXA の白木理事が資料 11-1 (ISS 計画の HOA 結果等) を 10 分弱で説明した後、22 分程の質疑応答があった。(ISS のパートナーである 5 機関の首長が、3 月 11 日(木)に東京で集まり、今後の ISS 計画の進め方について議論を行った。その後引き続いて 1 時間半のミニシンポジウムが行われた。参加者は 198 名(定員 200 名)で、内、報道機関から 20 社 36 名が参加した。「メディアからは ISS の収益性について質問があり...云々」と示されており、此の件に関する質疑応答もあった。)(傍聴しながら、Business とビジネスの相違を感じた。Business とは、お金や労力を注ぎ込んで、お金を得たり、金額換算出来ないものを得たり、何かを失う事を逃れたりする事を言う様に感じる。ところが、ビジネスとは全てお金の換算し、利益を得る事と思っている人が多い様に感じる。宇宙活動に好意的でない人々との議論で、其の展開を誤ると、宇宙活動の将来を危うくするのではないだろうか。)

池上委員長:ご質問等御座いませんか。...あの、済みません、一寸私の方から、その、**MCB の報告**¹の中で、「ISS 運用コスト削減検討状況」の中で、「管制センタ間のインタフェースの簡素化」ってのありますネ。でも、JAXA と NASA の管制センタについて色々議論聞いてるんですけど、他の国との関係って云うので何か問題あるんですか。

¹ (3) 会議の内容 多数者間調整委員会(...MCB)からの報告のこと。

JAXA 白木: エエトですネ、NASA の方はヒューストンのシステム運用の管制センタと、ペイロード運用の管制センタがマーシャルに在ります。

池上委員長: アー、其れかア。

JAXA 白木: エエ、其れと、まあ、各局みんな結んでおりますので、非常に複雑にはなってます。其れを何とかかんとかしようとしています。アイデアとして、例えば 24 時間で皆貼り付けてますけども、そんなに貼り付けなくて、もっと簡素化出来ないかとか、そう云った提案が出て居ります。

池上委員長: そうすと、寧ろ此れ、アメリカサイドの話。

JAXA 白木: エエ、アメリカの運用の考え方をですネ、まあ、今迄のシャトルみたいに、常時貼り付いてる体制から、長期間運用に伴ってですネ、もう少しキオン(?)の抜ける方策を考えるべきじゃないかというのが、ムニヤムニヤの提案です。

池上委員長: アア、ハア、ハア、成程ネ。ウン。それから後、あの、一番下の、「次世代ドッキングシステムの標準化に関する...」って云うの、此れは ATV と HTV じゃ違いますヨネ。ドッキングポートが。で、此れは何をやるうとしてんですか。

JAXA 白木: エエトですネ、あの、ATV は今、ロシアのポートにドッキングして居りましてですネ、で、ロシアのドッキングポートは、ATV はロシアから買って居りまして、まあ、結構重量的に重たいとか、コストの問題があると云う風に聞いておりまして、で、将来的にシャトルが飛ばなくなった後、オリオンを開発して居ったんですが、今後、まあ商業化で検討するってのが

NASA の立場で御座いまして、まあ、そう云ったものがですネ、シャトルがドッキングしてる処にドッキングする事になると云う。で、そうなった時に、今みたいにバラバラだと困ると云う処で、ヨーロッパからの提案があったりですネ、ロシアとの話もあったりして、何か共同、共通化・標準化しようとする事の議論が出てまして、将来的にはポストシャトルのアメリカの宇宙船、或いはヨーロッパが将来開発した場合に使えるドッキングポートと云うか、日本も若し開発すれば使える標準のドッキングポートについての、大体の合意が付いて来ております。

池上委員長:其れはアレですか、ロシアポートに変換する様な事も出来るんですか。

JAXA 白木:ロシアポートは其の儘だと思えます。

池上委員長:アア、そうですか。

JAXA 白木:まあ、シャトルがドッキングしてる部分に、新たにシャトルのドッキングポートでない、標準化のヤツを付けると云う。進行方向ともう一つ右側にありますけど。其処に...はい。

池上委員長:ええ、エエ、ア、そうですか。

JAXA 白木:シャトルが居なくなると、其のポートがですネ、使えなくなりますから、使う人が居ないから新たに将来の宇宙船の為のポートを、標準化したもので作る。...

青江:ムニャムニャ。

池上委員長:はい。

青江:一つあるんですけれどもですネ、19 件の短期・長期のコスト削減項目。其れはかなり期待して良いですか。

JAXA 白木:エエト、まあ、どれ程期待出来るかと云うとですネ、あの特に我々が関心があるのは、まあ、日本の独自でやってる部分のコストの削減と、それから共通運用経費に計上されてる NASA の部分のコスト削減がありまして、

青江:そっちの方が大きい...

JAXA 白木:エエ、で、まあ、30%、其の内、今コスト検討の中でシツク(?)に関わるのは 30%位と言って居りましたので。まあ、NASA のプログラムマネージャは余り期待しない方が良いと云う様な事は言って居りましたが、まああの、幾分かは期待出来ます。

青江:まああの一、是非期待したいナアと思って居りますと云うのが一つなんですがねえ。それからネエ、NASA は「将来の開発の為のテストベッド」、まあ此れは実際にどんな事なのかと云うのを教えて頂きたいのと同時にですネエ、あの一どう云うんでしょう、各ムニャムニャ、あのまあ、それこそ方向が決まってからそれこそ四半世紀の間、ズツとこう、まあ、此の無重力環境利用と云うものをネ、各局共に捉えて居たですネエ。それで、今日の様な状況にあると。其れに対するイシ(?)に皆さん、此れどうにか、その一、もう一段斯う引き上げた処で、その一、所謂、宇宙利用についてのですネ、ハクイキ(?)を展開して行かなきゃいかんのじゃないかと云う意識ってのは、多分持っとんでしようネ。まあ、そう云ったもんの一環が此のテストベッドと云うのがある、出たんだと思うんですけど、其れです、質問はその一、依然としてその、非常に申し訳...もう一段、

斯う、色んな革新を斯う、ココウ(?)した利用と云うものは、ホントにどう云う事が現実的にですネエ、その、まあ、出来るのかと言いましょかネエ。其の辺のこう、まあ、若干エル(?)様なもんがあるんだと思うんですがねえ。どんな其の辺は状況なのか、そう云った辺りをですネ、少し説明をしてみてくださいませんかネエ。

JAXA 白木: はい。此の場ですか、別途ですか。

青江: エエト、どうでしょうか。非常に概括的に、何か革新をしなければ、変えなきゃと云う意識がある訳ですね。

JAXA 白木: そうです。

青江: 其処の処はどの辺が、斯うやっぱり、ポイントなのかとか云った辺りは、一寸紹介して見てくれませんかネエ。

JAXA 白木: NASA はですネエ、此処に書いてあります様に、NASA 内での公募と云う様な事を言っとりますけども、特に将来の有人宇宙技術の技術開発に的を当てた、社内 AQ、公募をやるという様な事を言って居ります。それからもう一つあるのは、宇宙ステーションに宇宙飛行士、各局、世界の飛行士が6人おられますんで、そう云った宇宙飛行士を対象にしたヒューマン・リサーチと言いますか、要するに人間の極限環境での、そう云った生活、滞在に関する研究って云ったものが挙げられております。で、我々もあの、単独でバラバラやるんじゃなくて、もう少しそう云った事を各局協力してやるべしと云う様な事で、一つはそのステーションを地球観測のプラットフォームと云う形で使えないかってな事も提案して居りまして、JAXA として

はまあ、今迄特にライフサイエンス、それから材料科学と云う様なものを中心に、微少重力環境の利用を進めて参りましたけれども、今後矢張りその、技術開発のテーマの募集だとか、或いは、まあ特に今、ライフイノベーションだとか、グリーンイノベーションと云う様な言葉もありましてですネ、そう云ったものに沿った、もう少し実用的な成果が出来る研究を、或る程度国内のトップレベルの研究者の処に行ってですネ、其れが宇宙研究に流用出来る様なものが無いかと、まあ、そう云った事の、的を絞った、成果を考えようかと。まあ、そう云った集中と云う、かなり集中した、選択したものと、それからもう少しやっぱりグローバルにやると云う、まあ、二つのアプローチが考えられておりまして、其れに加えてさっき言いました、折角世界共通でやってるんだから、世界的な協力でやれる分野って云う様な事が、今後の検討すべき範囲かなと思って居ります。

青江: ア、分かりました。まああの、そうですネエ、まあ実際、**今迄の延長の儘**でって云う事では、**やっぱりいかん²**ので、其処はまあ、今言われた様な事もやってネ、まああの、此れは次の質

² 性急な発言ではなからうか。『今迄通りやって居れば良い。』より、常々『もっと優れたやり方は無いものか。』と不断の努力を重ねる事が良いのは勿論である。ISS の様な新たな試みに於いては、『不安を抱えながらも、兎も角初心を忘れず迷わず悩まず押し進める。』事も大切だろう。20年の歳月を掛けて進めて来た計画の JEM が完成してから、未だ半年しか経っていないので、問題点を是正するには早過ぎるのではないか。

問に関連すんですけども、何等かの時間内ですネ、新しい仕組みと言いましょかネエ。新しいトライを考えないといかんですネ。

JAXA 白木: **其の通りで御座います。**³はい、分かりました。

青江: ですネ。それからもう一つはですネエ、あの一、所謂政府に、まああの、機関長は、まあ「一緒にやりましょネ。」って云う事で了解なんですネ。これはヒカチタントウ(?)じゃなくて、ムノウブン(?)方なんですけれどもネ。ホントに此れで、出来ればブントスウ(?)に、各国政府の了承って言うんかなあ、承認か。を、「得るべく」って言う事になっとる訳ですネエ。其れを受けて、各国の政府側が、日本各政府を含めて、各国政府側の、今の状況、此の機関長から、要するにもう5年、プラス5年と云う意向を受けての、政府側の状況と云うのは、概括的に言って、4 極の政府側の動向と云うのは、どう云う風な状況に今在ると云う風に理解をしとけば良いんですか。

森本審議官: あの一、アメリカにつきましては、

青江: アメリカは良い。

森本審議官: はい、そうですネ。

青江: アメリカはもう、ハッキリ打ち出しとんだから。「こうだ。」と、斯う言っとるんだからネ。

森本審議官: それから、ヨーロッパについては、先ずは ESA の中でボードが御座います。それで、其処の承認が得られた後、今

度は EU のですネ、カウンセルって云うのが御座います。そして、其の上に各国の政府に於ける承認と、まあ、斯う云う手続きになるんで、此れを 12 月一杯位迄に、今年中には...

青江: 今年 12 月一杯。ハァー。

森本審議官: はい、そうですネ。あのまあ、終了したいと云う事を...で、まあ、ロシアは一寸中が良く判らないんですけど、まあ FSA のご決定の後ですネ、また調整って云いますか、ロシアの方の承認と云う事になるかと思えます。それからカナダもまあ CSA の後あの、まあ、財務当局も入れたムニャムニャ。で、日本は、あのまあ、其の後どうするかって云う事で、まその、戦略本部との関係、内務省との関係、これから議論して行きたいと云う事で御座います。で、今、仰った様な新しいコンセプトと言いますか、取組と云うのをまあ、其の中に盛り込んで行ければと云う風に考えて居ります。

青江: あの一、これまあ報道等に依りますとネ、あの、日本国政府部内に於きましてのハイランキングな、何人かの方が若干こうー、まあ**好意的な発言を為された方もいらっしゃるし、若干否定的なご発言な去る方もいらっしゃると云う事**⁴なんで、此れから先まあ、どう云う風なまあ、政府としてのギセツテイ(?)と云うものに持って行く為に、何が一番のポイントになる

³ 「**不断の努力は欠かせない**」と云う意味の発言と考える。

⁴ **宇宙活動自体に賛成者も反対者もいるのだから、其処から考えなければならぬと思う。宇宙を経済活動として評価した時に、高い評価が得られよう筈がないと思う。**

んだらう。そう云う方々のまあ、ご理解を得る為には。何等あの一、若干こう、ややネガティブなご発言を為さる方の背景にあるのは何なんでしょうネエ。

森本審議官:はいあの、結局あの一、**プライオリティ付の問題で、宇宙基本計画の中に色んなプロジェクトがこう、記載されて、5年間でやると云う事になっているんですが、そのまあ、厳しい財政状況の中で、其れをどう云う順位でやって行くのか⁵**と。

で、其の時に、一方では月探査の様なものが新しく提案されている。それからまあ、地球観測の様な衛星プロジェクトが沢

⁵ 宇宙活動の全体予算が確保された中で、其の配分についてのプライオリティの議論なら良いが、反対意見を発せられる議員は違う考えがあるのではないだろうか。スーパーコンピュータやハイテク家電や自動車と同じ土俵で宇宙活動を評価している可能性は無いか。そうだとすれば、此処で発言されている「検証」は何の役にも立たない。ビジネスを注ぎ込んだ資金に対する収入・収益だけで評価する人には、宇宙活動は経済効率の悪い事業に見えて居る事だろう。Business と云うものには、金銭換算出来ないものを入手する事や、失う事を防ぐのも含まれていると感じない方に対して、宇宙活動への資金投入を認めさせるには、此の基本部分の理解から手を付ける必要がありはしないか。中国が退役する中距離弾道弾を束ねて、科学観測衛星打上げシステムにしようと試みたのは、日本の M-打上を、大陸間弾道弾の実験の様な抑止力のデモンストレーションと感じたからだと思う。勿論其れを中断させた儘なのは、技術的な課題の他に経済的な阻害要因もあるかも知れない。兎も角、宇宙活動は広義の Business で捉えないと議論にならない。

山あると云う中で、此のステーション計画をどう位置付けて行くか、そして、其れがまあ将来の宇宙探査の中にどの様に繋がっていくのかと、まあ此の辺りを明らかにして行けばとムニャムニャ。で、其れをまあ一つのあの一、財政の枠組みの中で、上手くこう、調整が出来るのかと、まあ、此の辺りを検証して行く必要があるのかと思います。

青江:はい。

井上; エエトあの、先ず JAXA が、ア一、2 頁の JAXA の処に書かれている、あの、「今後の利用について」のと云う、或る種の提案を行ったと云う、此の内容ですけども、例えば地球環境問題への対応っての事については、具体的な内容が考えられての提案になってるんでしょうか。

JAXA 白木: 未だ、内部検討の段階では御座いますが、一つは宇宙飛行士が居ると云う事で直視出来ると。それから地球で色々なまあ、例えば火災が起きたり地震が起きたりした場合に、宇宙飛行士の目で見れると云う意味での一つの観測と。それからもう一つは、赤外線カメラ等搭載しまして、宇宙ステーションで例えば森林火災を発見するとか、まあ、そう云った使い方があってはならないかと云う様な事をですネ、ステップ毎にまあ、内部で検討してる段階で御座います。で、まあそう云った地球監視ステーション的な位置付けで、ステーションを使って行く事をまあ、日本単独じゃなくて各極皆さんがセンサを持ち寄ってですネ、暴露部に取り付ける事で総合的な地球の健康状態の判断だとか、ハザードの監視が出来るんじゃない

かってな事が、まあコンセプトとして考えておりました、そう云った事を皆さん一緒にやっ行って行かないでしょうかってな事を提案して居ります。

井上:あの、方向付けとしてはあの、結構な事だと思んですけど、まあ、同時にあの、先程の NASA が言ってる将来の開発の為のテストベッドって云う様な事も含めて、まあ、国際的なまあ一つの大きな実験な訳でしょうから、そう云う将来の、此の 2015 年から 2020 年に限らず、もっと将来を見据えた視点からの 15 年 20 年の宇宙ステーションの使い方みたいな分については、国際的な結構色んな議論があるべきだと思うんですけども、此処では余りそう云う事についての、どう云う形でやってく⁶って云う様な感じのメッセージが見えない様な気がするんですけど、其の辺は何か議論が後から...

⁶ 米国が ISS 計画を発案し、日欧に参加を呼び掛けた頃には、広く深い議論が行われただろう。(小職も作業に参加していたが、上位の管理者だけが持つ様な情報には接する事が出来なかった。)そして途中でソ連が崩壊し、ロシアがプログラムに参加し、ISS の International の定義に多少の見直しが加えられ、其の時にもまた綿密な議論が行われたのだろう。そして、もう少しで ISS が完成する。(ロシアがモジュールを設置するのが残っている。)計画の立上げから完成間近の今迄、計画の微小修正を繰返しながら此処まで来たのだと思う。計画の達成を目前に、其の先を根本的な処から議論するのは大切であるが、数年前から数年掛を想定して議論しつつあるのではないか。結論・合意までには未だ未だ時間を要するのではないか。

JAXA 白木:其処までは未だ、議論が届かない...

井上:これからそう云う事が行われてく?

JAXA 白木:はい、其の通りですネ。多分もっと上から、グローバルに捉えてですネ、其の中でステーションの利用は斯うすべきだとか言うのが出て来るのがまあ、多分期待されてるんですが、未だ其処までの議論は進んでおりません。

井上:で、正云う議論の機会を用意されている? 枠組みはあるんですか?

JAXA 白木:今後あの、MCD の枠を通じてですネ、そう云った議論をして行こうと云うのがまあ、提案されて居ります。

池上委員長:ア、あの、エエトですネ、あの、ミニシンポジウム、私も出席したんですが、あの、此処にも書いてあります様に、中国の参加の可能性について、で、これに対して、少なくともあの 5 極でやると云う事については今後も継続して行くと。で、中国の方から何か話があったら乗ると云う話だったですヨネ。

JAXA 白木:はい。

池上委員長:エエト、此方の方から積極的に...

JAXA 白木:エエトですネ、あの、ノンパートナーに定義について色々議論が、あの此れ事前に御座いました。それは要するに友好国の国以外の方に対して、ユーザって言いますか、パティシパント、まあ、使うと云う意味で、先ず最初に呼び込むのが先だろうと。それからもう一つはパートナーにまあ追加すると云う話は、結構 IGA だとか MOU に関わって来るものですから、いま直ぐにと云う程じゃなからうと云う事で、あのまあその、記者か

らあった質問に対しては、先ず中国が参加したいかどうかという意思がないと、こっちから呼ぶ状況ではないと云う風にまあ、答えられたと私は思って居ります。

池上委員長:で、其の、パティシパントについてはですネ、開発途上国を含め、あの、何かシトメ(?)ある様に、積極的に声を掛けようって話だったんですが、実際問題として、特にカナダの方は「いや我々はその、2.5%しか分担していないんで、年に1回しか実験は出来ないヨ。」と云う様な、何て言うんですか、「そんな余裕はないヨ。」と云う発言があったんですけどネ、他のパートナーを呼んでやる様なスペース的、スペース的って言うか、実験項目に、ア、実験の提供する場が、余裕があるんですか。

JAXA 白木:日本としてはあります。

池上委員長:アア、ハア、ハア、ハア。

JAXA 白木:だからその、どう云うテーマが。...例えば「きぼう」の中に今在る装置を使った実験ならば十分ありますし、ユーザが新たな装置を持って来て、其れで実験をやるよと云うのもあるでしょうし、まあ、そう云った事で、まあまあ、所謂沢山、そろそろ出て来る程ではないだろうと思いますが、可能性は十分あると思っています。

池上委員長:と云う事は、夫々の国が自分の分担、...自分の...何ですか、余裕ですか、其の中でやると云う事なんですか。

JAXA 白木:問題はですネ、其処で御座いまして、例えば日本がアジアの国を呼び込んでやると。で、アメリカもじゃアジアの国

に声掛けたり、アメリカの方に乗った方が非常に楽だとか、使い易いと云う事になると話がややこしくなる⁷ので、其処等辺りは全体、MCB の場でですネ、一つ調整すべきではないかと云う様な議論がありました。

池上委員長:何れにしてもアレですネ、アメリカも積極的に乗って来ると、その、あの、研究室と云うか、研究場の使い方、或いは其の成果で、豪(えら)い競合が現れたりする。

JAXA 白木:あります。あの、何処のパートナーを通してやれば安く実験が出来るとかですネ、そう云う事が分かって来ると、話がややこしくなるので、其処は調整すべきであろうと云うのがありました。

池上委員長:後ですネ、その、あの、2028年て云う言葉があるけど、あれは何ですか。

JAXA 白木:エエト、1998年から組み立てが始まりまして、其処から30年後と云う事で、ま、あのはっきりと30年間、今後まああの、2028年迄ですネエ、システムをメンテナンスをしながら、運用出来るかどうかという技術的な問題について、まあ、評価をしようよと云う事が提案されていると云う事です。

⁷ 誘致合戦になると得をするのは「ユーザ」だろう。其れを防ぐ為に5極が下相談をすれば「カルテル」と云う事にもなりかねない。自国の研究者と共同研究している5極外の参加者なら、何の問題も無かるうが、其れ以上に参加希望者がいるのだろう。ただ、喜び勇んで参加した処、ISSで実験する準備の煩わしさに驚き、思った程の成果が出ずに悩み、後悔に苛まれると云う事にならなければ良いが。

池上委員長:じゃあ、其れは此れからの、

JAXA 白木:此れからです。

池上委員長:20年から28年の延長から(?)...

JAXA 白木:我々もまあ、其の2028の前に2025という数字が御座いましたけども、今後その、今、軌道上で使ってる部品の枯渇の問題だとか、それから全く軌道上で使ってるものが使えなくなるから代替品を開発⁸しなきゃならんと、まあ、そう云った事も出て来かねないので、今後もう少し、2~3年運用した上でですネ、そのMTBFだとか云うものを評価して、一体何処まで運用出来るかと云う事は、検討・評価したいと云う様な事を、JAXAからは回答して居ります。

池上委員長:あと、此処にも書いてありますが、質問の方からですネ、...ア、ア、質問の中に、収益性についての質問があって、それに対して皆さんがですネ、「いや、我々は科学技術をやってるんだ。コマーシャルの事は一切考えてない。」って発言があったのは非常に印象的だった⁹んですけど、如何ですか？

⁸ ロケットや衛星のインテグレータの企業は、社内他部門に補用品の管理を行って居る部署を持っていて、其処の知恵を借りる事が出来るが、JAXA にとっては今迄に無い全く新しい経験である。在庫品管理に大した技術・ノウハウがある訳ではないが、甘く見て居ると痛い目に遭う、それなりに奥深い技術分野である。

⁹ 「印象的」と評価しても、何と答えて良いのか分からないだろう。ミニシンポジウムの回答は、収益を求める記者の発言への、憤りの反

JAXA 白木:いやまあ、あの一、其の通りですネ。まあ、此れでビジネスになるようでしたら、民間がやる筈¹⁰なんですので、まあ、ビジネスにならないと云う事でまあ、政府がやっていると云う事だろうと思いますんで、...

池上委員長:他に、何かご質問御座いますでしょうか。...皆、あの、各、あの、トップが全部揃って... ...ロシア御座いましたっけ、ロシアはどう云ったご発言...

JAXA 白木:ロシアも同じ様な、あの、まあ、理事長、立川理事長も含めてですネ、トーンは若干異なって居りましたが、要するに、質問はそう云った「ビジネスがなっていないじゃないか。」と云う事に対して、其れはまあそう云う分野で、まあ「国がやらないとやれないから、やってる。」って云う様な事とか、まあ、理事長何かは、「会社で言えば基礎研究みたいなものだから、そう云った分野の投資も必要である。」と云う様な事を仰ってましたけどネ。

青江:其れはアレなんでしょうネ。あの一、勿論あの回答はあの一、ビジネスが成立する様なですネ、ものではないと云う事は、事の性質上¹¹はそうなんでしょうけどネ。しかし、リメイク(?)して

論ではなかろうか。

¹⁰ 用語の選択の誤りだと思う。「収益性が高いのであれば民間が進んで参入する。」と云う意図での発言と解釈したい。また、「収益性は乏しいが、...」と述べた後で続く、宇宙活動によって得られるものと、宇宙活動に参加しないと失うものとの説明が重要なのである。

¹¹ 此の回答では質問した記者は納得しないだろう。

ると云う、そう云う稀なケースって云うのは、或る事はある訳ですヨネ。其れは其れで、エエト、ヘジテートしていると良いと。

JAXA 白木:其の通りです。はい。

青江:と云う事ですヨネ。

JAXA 白木:はい。あの、要するに今迄国が投資したものがですネ、

其れをまあ、投資対効果と言われると無理だけでも、...

青江:アア、そう云う意味では、其れは話ならんでしょ¹²けどネ。

¹² 宇宙活動の当初目的は、立川理事長が仰ったといわれる「基本的な研究開発」の要素、未知の探求や宇宙旅行の夢の追求、及び、宇宙開発に取り組まない事によって失うものの確保などであったろう。其れが為政者の心を動かし、当初の活動に予算が配分されたのだと考える。従って、当時は投資に対する収益を期待しては居なかったと思う。また、商業的な収益の問題は、技術的先駆者とは異なる人々に依る取組が重要なのだろう。以前にもコメントに記したが、世界初の動力飛行に成功したのはライト兄弟であったが、其れを商業利用したのはUS Mailの創始者であったし、暫く後に軍隊が採用して技術が急速に発達したのである。軍隊の場合は、飛行機採用以前は陸軍と海軍だけだったのが、両軍が持つ航空機戦力が集結され空軍が創設されている。

更に、米国には宇宙軍も作られている事から、軍事的視野からの宇宙活動の有意性は明らかなのである。我が国は其の様な利用形態は考えないとしても、其の技術を有する事が外国から評価されている事は間違いのない処である。此れは収益性と云う物差しで測る事の出来ないものである。先に青江委員が発言した「事の性質上」の一部は此れだろうが、此の様な話題に一寸でも踏み込むと、其の瞬間耳が塞がれてしまう方も多いので、中々議論にならない。

JAXA 白木:ただあの、個別にですネ、ビジネスが成立するものは当然あります。

青江:所謂有償利用と云うものがネ、その、可能な限り其処の処は追及して行くんだと云う事は間違い¹³ないですヨネ。

JAXA 白木:そうです。

池上委員長:はい、他に?.....御座いません様でしたら、どうも有り難う御座いました。

JAXA 白木:どうも、有難う御座いました。

池上委員長:本日の報告は此処迄で御座います。

(その他の議題に進んだ。)

¹³ コメントがしつこ過ぎて申し訳ないが、政府による刺激策には容易には賛成できない。先ずどの省が其れを担当するのかが問題になる。また、開発費を投じて磨いた技術を使って衛星やロケットを世界に売り込むのか、宇宙通信や地球観測画像配信や更に其れに続く何等かの利用サービスを売り込むのか、夫々の作戦は異なる。収益の構想次第でプレイヤーが違うのではないか。

処で、JAXAは東南アジアの地震や津波などの被災国に衛星画像を提供している。とても利用料金を請求できる相手ではない。そんな事をやる一方で、宇宙での活動を通じて新たな収入源を開拓しろと言うのか。収益事業を企画する能力に長けた集団とは思えない。